

国際通貨研レポート



Institute for International Monetary Affairs (IIMA)

公益財団法人 国際通貨研究所

2025 年 10 月 10 日

2025 年 BIS 世界外国為替市場調査について

～米ドルのシェアは安定、中国人民幣元はさらに躍進～

公益財団法人 国際通貨研究所

経済調査部 上席研究員

橋本 将司

masashi.hashimoto@iima.or.jp

目次

<要旨>	1
<本文>	2
1. BIS の 2025 年世界外国為替市場調査について	2
2. 2025 年の外国為替市場の取引規模と取引項目別内訳	2
3. 外国為替市場取引額の通貨別シェア	4
(1) 通貨別シェア	4
(2) 取引通貨ペア別シェア	6
4. 外国為替市場取引額の地域別シェア	7
5. まとめ	8
付表： 各通貨の略称	9

<要旨>

- 国際決済銀行（BIS）の 2025 年世界外国為替市場調査によると、世界の外国為替市場の 2025 年 4 月の 1 日あたり取引額は 9 兆 5,954 億ドル（前回比+28.5%）と、過去の実績範囲内の増加率。世界の為替市場の規模は一定の増加傾向が続いている。

- 取引額の通貨別シェアでは、米ドル、ユーロ、日本円、英ポンド、人民元の上位 5 位の順位は不変。個別にみると、米ドルのシェアは引き続き安定、ユーロと英ポンドは趨勢的な低下基調、日本円も今回は前回比横ばいも、趨勢的には低下基調。中国人民元は過去からの上昇傾向が続き、今回も対象通貨の中でも最も大きくシェアが上昇。新興国通貨全体もシェアは上昇傾向で取引通貨の分散化が進んでいる。
- 取引額の地域別シェアでは、英国、米国、シンガポール、香港、日本の上位 5 位の順位は不変。個別にみると、英国と米国は安定。シンガポールは近年の上昇傾向が継続。香港も近年上昇傾向にあったが最近横ばい。日本は趨勢的な低下傾向が続いており、シンガポールや香港との差が拡大。2010 年前後からの英国、シンガポール、香港など国際金融都市への取引集中が日本のシェア低下の要因とみられる。

＜本文＞

1. BIS の 2025 年世界外国為替市場調査について

国際決済銀行（BIS）は、9 月 30 日に「2025 年外国為替市場及び店頭（OTC）デリバティブ市場に関する中央銀行サーベイ」¹の結果（速報値）を公表した。本調査は世界の外国為替市場及び店頭金利デリバティブ市場の規模や構造に関する最も包括的な調査で、3 年に一度、調査年の 4 月に実施されている。本稿ではこのうち外国為替市場に関する調査結果について、市場規模や通貨シェア、取引地域シェアを中心に概説する。外国為替市場に関する調査は 1986 年から 3 年ごとに実施されており、今回 2025 年の調査では 52 の国・地域の 1,100 以上の報告金融機関が参加している。2022 年版から不参加となっていたロシア（前々回 2019 年の取引シェア 1%未満）は今回も不参加となった。

2. 2025 年の外国為替市場の取引規模と取引項目別内訳

2025 年 4 月の 1 日あたりの世界の外国為替市場の取引額は、9 兆 5,954 億ドルと前回 2022 年の 7 兆 4,675 億ドルに対して 28.5%の増加となった（第 1、2 図）²。2025 年 4 月は、2 日にトランプ政権による貿易相手国に対する相互関税が発表されたことを切っ掛けに、米国トリプル安のような動きがみられるなど市場が大きく変動した時期であったが、概ね過去の実績範囲内の増加率であり、世界の外国為替市場の取引規模が引き続き一定の増加傾向にあることを示すものとなった。2024 年の世界の名目 GDP 総額は 110.5

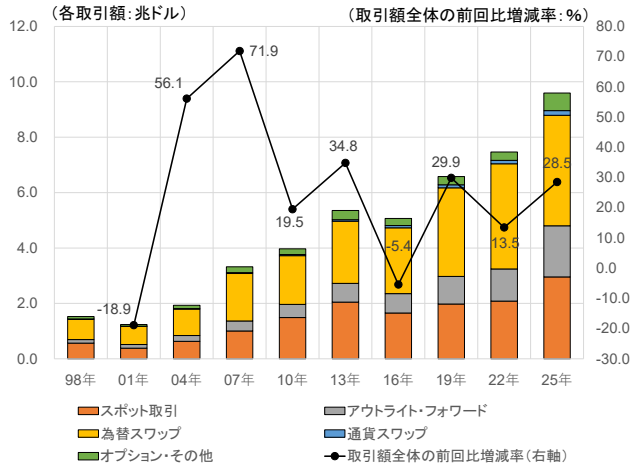
¹ [Triennial Central Bank Survey of foreign exchange and Over-the-counter \(OTC\) derivatives markets in 2025](#)

² 各通貨とその略称の対比表は後掲の付表を参照。

兆ドルであり 1 日あたりでは 0.3 兆ドルとなることから、現在の世界の外国為替市場では日々その約 32 倍の金額が取引されている計算になる。1998 年を 100 として指数化すると、2025 年時点で世界の外国為替市場取引額は 629（6.3 倍）、名目 GDP 総額（但し 2024 年分）は 345（3.5 倍）となり、外国為替市場の取引規模が、実体経済の増加ペースを上回って拡大して来たことを確認できる（第 3 図）。

取引種類別の内訳をみると、今回の調査では、スポット取引とアウトライイト・フォワードが全取引の中で前回比シェアを幾分か増加させたが（28%→31%、15%→19%）、依然として為替スワップが、シェアを低下させつつも最も大きなシェア（51%→42%）を占めた（第 1 図）。

第 1 図：世界の外為市場取引額の推移と取引種類別内訳



（資料）BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

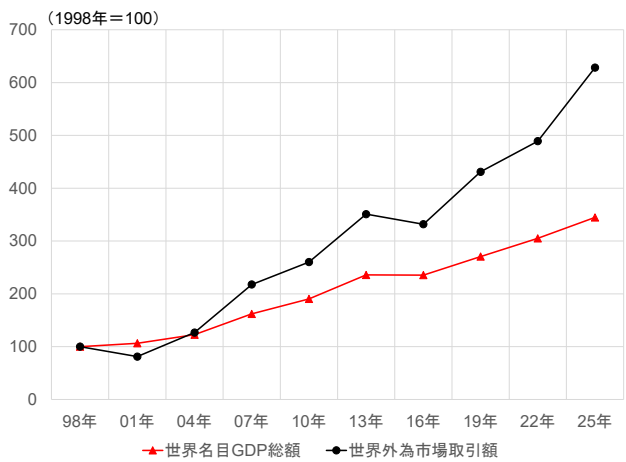
第 2 図：世界の外為市場取引額の推移と主要通貨別内訳

	1998年	2001年	2004年	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年	2025年
USD	1,325	1,114	1,702	2,845	3,371	4,662	4,437	5,811	6,599	8,560
EUR	—	470	724	1,231	1,551	1,790	1,590	2,126	2,286	2,773
JPY	332	292	403	573	754	1,235	1,096	1,108	1,249	1,610
GBP	168	162	319	494	512	633	649	843	966	981
CNY	0.2	0.1	2	15	34	120	202	285	524	817
CHF	108	74	117	227	250	276	243	326	388	612
AUD	46	54	116	220	301	463	349	446	478	583
CAD	54	56	81	143	210	244	260	332	463	561
HKD	15	28	34	90	94	77	88	233	193	367
SGD	17	13	18	39	56	75	91	119	182	232
その他	988	218	353	771	811	1,139	1,127	1,533	1,608	2,094
合計	1,527	1,239	1,934	3,324	3,973	5,357	5,066	6,581	7,468	9,595

（資料）BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

（注）本調査では 1 つの外国為替取引を両通貨のサイドからカウントし集計しており、各通貨の取引額の合算値は、「合計（市場取引額合計）」の 2 倍となっている。

第 3 図：世界外為市場取引額と世界名目 GDP 総額推移



（注）名目 GDP は、各表示年の 1 年前のデータ

（資料）BIS、IMF より筆者作成

3. 外国為替市場取引額の通貨別シェア

(1) 通貨別シェア

BIS の外国為替市場取引額における通貨別シェアの表示は、全体を 100%としてではなく 200%としての表示となっている。全ての外国為替取引は USD と JPY など 2 つの異なる通貨の間で行われるが、本調査では通貨ごとに取引を集計しているため、1 つの取引が USD と JPY など両通貨サイドで 2 回ずつカウントされることになる。このため、通貨ごとの集計を合計した全体の取引額は、本来の全取引額の 2 倍の金額（200%）として算出される。前節でみた世界の外国為替市場の取引額推移は、その半分（100%ベース）に調整した本来の値であるが、通貨別シェアについては、そのまま全体を 200%として表示している。先にみたように全ての取引は 2 つの通貨の間で行われており、取引の一方のサイドでのシェア合計を 100%、もう一方のサイドでのシェア合計を 100%として合計を 200%と考えているためだ。例えば、ある通貨のシェアが 100%の場合、全ての外国為替取引がその通貨を相手方として取引されていることを意味する。以下本稿でも BIS の表示に沿ってこの表示方法により記述する³。

2025 年の世界の外国為替取引における通貨別シェアをみると、米ドルがシェア 89.2%（合計 100%ベースに換算すると 44.6%）で第 1 位、ユーロがシェア 28.9%（同 14.5%）で 2 位、日本円がシェア 16.8%（同 8.4%）で 3 位、英ポンドがシェア 10.2%（同 5.1%）で 4 位、中国人民元がシェア 8.5%（同 4.3%）で 5 位となり、上位 5 位の順位に前回調査から変動は無かった（第 4、5 図）。米ドル、ユーロ、日本円の G3 通貨合計でシェアは 135.0%（合計 100%ベースでは 67.5%）、上位 10 通貨合計で 178.2%（同 89.1%）と、少数の主要通貨で取引シェアの大部分を占めている構図は不変（第 6 図）。

過去からのシェア推移をみると、今回米ドルは前回比小幅な上昇で、1998 年からのシェアの推移も幾分かの変動は伴いつつも概ね一定水準で安定している。直近のシェアが 89.2%であることから、世界の外国為替市場において約 9 割が米ドルを相手に取引されており、基軸通貨の機能の 1 つである決済通貨（媒介通貨）としての機能が引き続き盤石であることを示している。

一方、ユーロや英ポンドは、今回シェアが前回比低下しており、趨勢的にみてもシェアは低下傾向にある。特にユーロは直近 10 年の低下傾向が顕著であり、この間シェアが上昇して来た米ドルと対照的な推移となって来た。日本円も今回の調査では前回比ほ

³ [2022 年 10 月 31 日付国際通貨研レポート「2022 年 BIS 世界外国為替市場調査について～中国人民元が取引シェアで世界第 5 位の通貨に～」](#)では、通貨別シェアの表示は、直感的な分かり易さの観点から、全体を 100%ベースの表示で記述したが、本稿では BIS の記述に合わせて、全体を 200%ベースの表示で記述した。

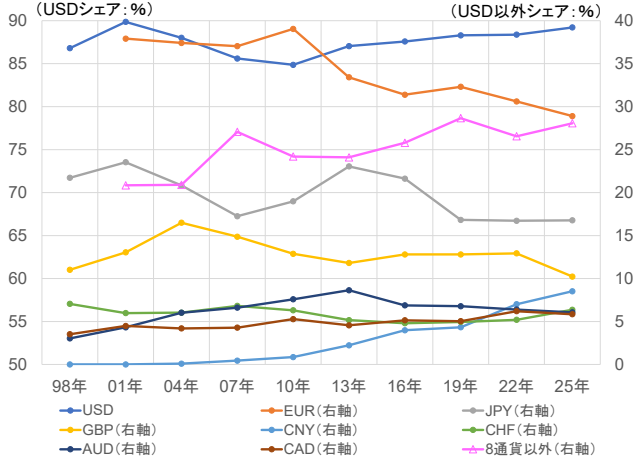
ば横ばいであったが、趨勢的にみると低下傾向にある。こうした中で、中国人民元は、今回の調査で対象通貨の中でも最も大きくシェアを上昇させると共に、過去10年でも大幅にシェアを上昇させて来た。シェア順位は前回と変わらず5位にとどまったが、4位の英ポンドとの差は大きく縮小しており、円に次ぐシェア4位の座も視野に躍進が続いている。

第4図:世界の外為市場取引額の通貨別シェア推移(Top10)

	1998年	2001年	2004年	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年	2025年
USD	86.8	89.9	88.0	85.6	84.9	87.0	87.6	88.3	88.4	89.2
EUR	—	37.9	37.4	37.0	39.0	33.4	31.4	32.3	30.6	28.9
JPY	21.7	23.5	20.8	17.2	19.0	23.0	21.6	16.8	16.7	16.8
GBP	11.0	13.0	16.5	14.9	12.9	11.8	12.8	12.8	12.9	10.2
CNY	0.0	0.0	0.1	0.5	0.9	2.2	4.0	4.3	7.0	8.5
CHF	7.1	6.0	6.0	6.8	6.3	5.2	4.8	4.9	5.2	6.4
AUD	3.0	4.3	6.0	6.6	7.6	8.6	6.9	6.8	6.4	6.1
CAD	3.5	4.5	4.2	4.3	5.3	4.6	5.1	5.0	6.2	5.8
HKD	1.0	2.2	1.8	2.7	2.4	1.4	1.7	3.5	2.6	3.8
SGD	1.1	1.1	0.9	1.2	1.4	1.4	1.8	1.8	2.4	2.4
その他	64.7	17.6	18.2	23.2	20.4	21.3	22.3	23.3	21.5	21.8
合計	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0	200.0

(注)本調査では1つの外国為替取引を両通貨のサイドからカウントし集計しており、個別通貨のシェアの合計は200%となっている。
(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第5図:世界の外為市場取引額の通貨別シェア推移(グラフ)



(注)本調査では1つの外国為替取引を両通貨のサイドからカウントし集計しており、個別通貨のシェアの合計は200%となっている。
(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第6図:世界の外国為替市場の上位39通貨による取引額内訳とシェア(2025年)

通貨	USD	EUR	JPY	GBP	CNY	CHF	AUD	CAD	HKD	SGD	INR	KRW	SEK	MXN	NZD	NOK	TWD	BRL	ZAR	PLN
取引額	8,560	2,773	1,610	981	817	612	583	561	367	232	185	171	155	153	147	125	116	90	78	74
シェア	89.2	28.9	16.8	10.2	8.5	6.4	6.1	5.8	3.8	2.4	1.9	1.8	1.6	1.6	1.5	1.3	1.2	0.9	0.8	0.8
DKK	69	64	50	48	42	39	36	24	20	20	20	14	11	10	9.0	4.0	3.4	1.5	0.7	315
0.7	0.7	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	200.0

(注)本調査では1つの外国為替取引を両通貨のサイドからカウントし集計しており、個別通貨のシェアの合計は200%となっている。
(資料) BIS “2025年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

その他の通貨では、今回シェア6.4%（同3.2%）で6位であったスイス・フランや、シェア3.8%（同1.9%）で9位の香港ドルのシェアが前回比上昇した。スイス・フランは、前回のシェア8位からオーストラリア・ドルとカナダ・ドルを抜いてシェア6位に順位が上昇したが、シェア自体は過去からの推移の範囲内であった。香港ドルは前回調査で一旦シェアを低下させており、2020年6月に施行された香港国家安全法の影響が出たようにも見えたが、今回は中国人民元の好影響を受けてか、シェアを回復した。

米ドルを除く先進国通貨が全般的にシェアを低下させる中で、第5図で示した「8通貨以外」の通貨の合計シェアは、年によって上下の振れは伴いながらも趨勢的には明確

な上昇傾向がみられている。香港ドルやインド・ルピーなどを筆頭に多くの新興国通貨が、それぞれのシェアの水準自体は依然低いものの少しずつシェアを上昇させて来ており、新興国通貨全体では相応のシェアの上昇幅になって来た。先にみたように、取引シェアの水準は依然として少数の主要通貨が大きな部分を占めているが、中国人民元の動向と合わせて新興国通貨へ取引通貨の分散化が着実に進んでいることを示している。

(2) 取引通貨ペア別シェア

取引通貨ペアのシェアをみると、USD/EUR がシェア 21.2%（通貨ペアの集計のため合計 100%ベース）で第 1 位、USD/JPY がシェア 14.3%で 2 位と前回から順位は不変であったが、前回 3 位であった USD/GBP がシェア 7.6%で 4 位へ下落し、USD/CNY がシェア 8.1%と前回から上昇したことで、順位も 3 位へ上昇した（第 7 図）。過去からのシェア推移をみると、ユーロは USD/EUR と EUR/その他の両方で低下傾向となっている。USD/GBP も同様に低下傾向である他、USD/JPY もより緩やかではあるが低下傾向がみられ、主要通貨の取引ペアは全般的に低下傾向にある（第 8 図）。一方、USD/CNY が近年顕著に上昇している他、USD/その他も上昇しており、新興国通貨を含む取引ペアが増加傾向にあると共に、その際の取引相手方の通貨は米ドルに集中している模様であり、米ドルの決済通貨（媒介通貨）としてのプレゼンスがここでも確認される結果となった。

第 7 図:世界の外為市場の主要な取引通貨ペアのシェア推移

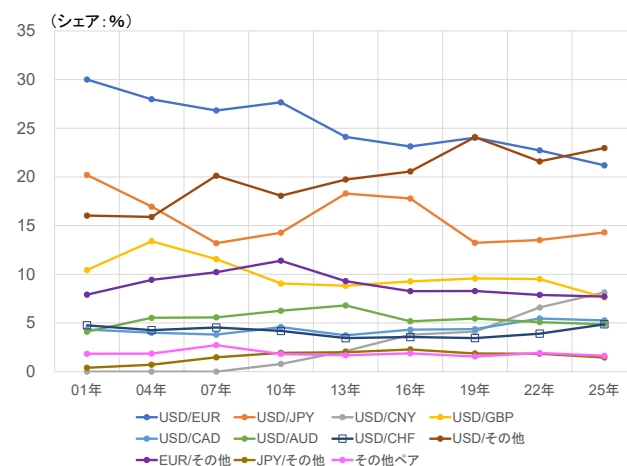
	（%）								
	2001年	2004年	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年	2025年
USD/EUR	30.0	28.0	26.8	27.7	24.1	23.1	24.0	22.7	21.2
USD/JPY	20.2	17.0	13.2	14.3	18.3	17.8	13.2	13.5	14.3
USD/CNY	—	—	—	0.8	2.1	3.8	4.1	6.6	8.1
USD/GBP	10.4	13.4	11.6	9.1	8.8	9.3	9.6	9.5	7.6
USD/CAD	4.3	4.0	3.8	4.6	3.7	4.3	4.4	5.5	5.3
USD/AUD	4.1	5.5	5.6	6.3	6.8	5.2	5.4	5.1	4.9
USD/CHF	4.8	4.3	4.5	4.2	3.4	3.6	3.4	3.9	4.9
USD/その他	16.0	15.9	20.1	18.1	19.7	20.6	24.1	21.6	23.0
EUR/その他	7.9	9.4	10.2	11.4	9.3	8.3	8.3	7.9	7.7
JPY/その他	0.4	0.7	1.5	1.9	2.0	2.3	1.9	1.8	1.4
その他ペア	1.8	1.9	2.7	1.8	1.7	1.9	1.6	1.9	1.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(注1) EUR/JPY は EUR/その他に計上。

(注2) 取引通貨ペアの集計のため、合計は 100%ベースになっている。

(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第 8 図:世界の外為市場の主要な取引通貨ペアのシェア(グラフ)



(注) 取引通貨ペアの集計のため、合計は 100%ベースになっている。

(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

4. 外国為替市場取引額の地域別シェア

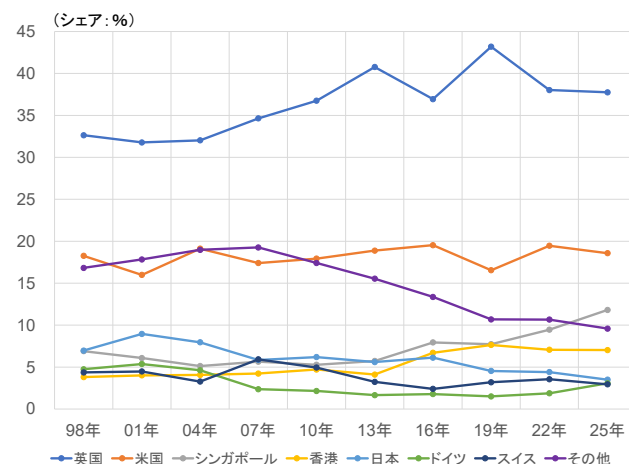
外国為替市場取引額の地域別シェアをみると、今回 1 位の英国から 5 位の日本まで前回 2022 年と順位は不変であった（第 9、10 図）。依然として英国（ロンドン）は世界最大規模の外国為替市場となっており、それに米国（ニューヨーク）、シンガポール、香港、日本（東京）と続く形になっている。これら上位 5 位の市場で世界の外国為替取引の 78.7%が行われている。

第 9 図:世界の外為市場取引額の地域別シェアの推移

	1998年	2001年	2004年	2007年	2010年	2013年	2016年	2019年	2022年	2025年
英国	32.6	31.8	32.0	34.6	36.8	40.8	36.9	43.2	38.0	37.8
米国	18.3	16.0	19.1	17.4	17.9	18.9	19.5	16.5	19.5	18.6
シンガポール	6.9	6.1	5.1	5.6	5.3	5.7	7.9	7.7	9.5	11.8
香港	3.8	4.0	4.1	4.2	4.7	4.1	6.7	7.6	7.1	7.0
日本	7.0	9.0	8.0	5.8	6.2	5.6	6.1	4.5	4.4	3.5
ドイツ	4.7	5.4	4.6	2.4	2.2	1.7	1.8	1.5	1.9	3.1
スイス	4.4	4.5	3.3	5.9	4.9	3.2	2.4	3.2	3.6	2.9
カナダ	1.8	2.6	2.3	1.5	1.2	1.0	1.3	1.3	1.8	1.9
フランス	3.7	2.9	2.6	3.0	3.0	2.8	2.8	2.0	2.2	1.9
中国	0.0	0.0	0.0	0.2	0.4	0.7	1.1	1.6	1.6	1.9
その他	16.8	17.8	19.0	19.3	17.4	15.5	13.4	10.7	10.7	9.6
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

第 10 図:世界の外為市場取引額の地域別シェアの推移(グラフ)



(資料) BIS “外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

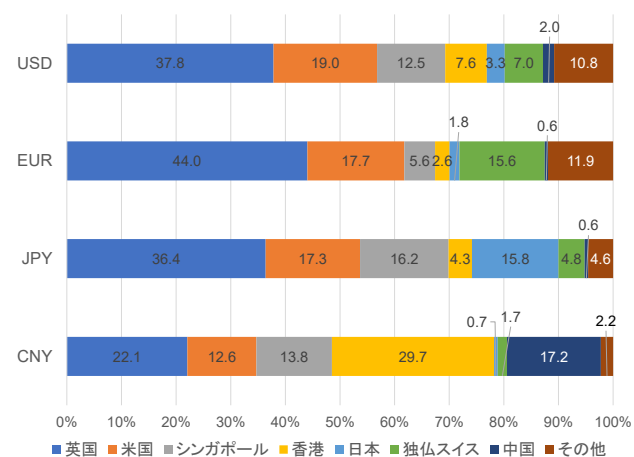
過去からのシェア推移をみると、今回 1 位の英国と 2 位の米国は前回比低下したものの、近年の大局的な横ばい推移の範囲内であり、高い水準での安定した推移が続いた。英国は前回 22 年の調査で前々回 19 年から比較的大きく低下していたため、EU 離脱による取引流出の影響の可能性もあり得たが、今回の結果からはそうした動きの継続は見られなかった。一方、3 位のシンガポールは、前回の 9.5%から今回の 11.8%へとシェアを大きく増加させ、4 位の香港や 5 位の日本との差をさらに広げる形となった。シンガポールは 2010 年代以降、シェアの増加傾向が顕著になっており、今回のシェア増加もそうした流れの中にあるようだ。4 位の香港は概ね横ばいとなった。シンガポールと比べると、前回 2022 年の調査からシェアの伸び悩みが見られており、2020 年 6 月に施行された香港国家安全法の影響が出ている可能性もあろう。

そうした中、日本は第 5 位にとどまったものの前回比シェアは低下しており、趨勢的にみても 2000 年代初頭からの低下傾向が続いている。かつては英国（ロンドン）、米国（ニューヨーク）に次ぐ位置にあったが、2010 年代に香港及びシンガポールとシェアが逆転し、その差が拡大する傾向にある。日本と同様の趨勢的なシェアの低下傾向は「そ

の他」の地域（上位 10 位以外の地域の合計）にもみられている。これらの地域と対照的に、2010 年前後から英国、シンガポール、香港のシェアの上昇傾向がみられていることから、これら国際金融都市への外国為替取引の集積・集中が進んだことが、日本（東京）などの趨勢的なシェア低下の要因になっていると考えられる。中国のシェアは前回から小幅に増加したが、既に見たような中国人民元という通貨の取引シェアの大幅な上昇と比べて、地域のシェア水準や上昇傾向は限られたものにとどまっている。

主要な通貨の地域（市場）別の取引額シェアをみると、米ドル、ユーロ、日本円は英国で最も取引されている一方、中国人民元は、香港で最も取引が行われている（第 11 図）。日本円は 15.8%が母国市場である日本で取引されているが、残り 84.2%は海外市場で取引される構図となっている。

第 11 図：主要通貨の取引額の地域別シェア(2025 年)



(資料) BIS “2025 年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

5. まとめ

今回の調査では、世界の外国為替市場の取引額が、世界の名目 GDP 総額を上回る規模とペースで、引き続きコンスタントに増加していることが確認された。通貨別の取引シェアでは、引き続き米ドルのシェアは安定しており、基軸通貨の機能の 1 つである決済通貨（媒介通貨）としての機能も盤石であるようだ。米ドル、ユーロ、円の G3 通貨を始めとした少数の主要通貨が、世界の外国為替市場の取引額シェアにおいて、依然として大きな部分を占めている。一方、中国人民元の取引シェアは、英ポンドに肉薄する水準まで上昇しており躍進が続いている他、新興国通貨のシェアも全体では上昇傾向にあり、米ドルを除く主要先進国通貨からそれ以外の通貨へ、取引の分散化が少しずつ進む方向にあることも示された。

外国為替市場取引額の地域別シェアをみると、5位の日本（東京）を含む上位5位は前回から不変であった。もっとも、趨勢的に日本のシェアは低下傾向にあり、今回シェアを大きく上昇させたシンガポールを始め、英国（ロンドン）や香港など、国際金融都市のシェアが趨勢的に上昇しており、こうした地域への外国為替取引の集積が、日本のシェア低下の要因であることが示唆された。東京市場の地盤沈下を抑制するには、こうした状況を念頭に置いた対応が必要であろう。

付表：各通貨の略称

AED	United Arab Emirates dirham	JPY	Japanese yen
ARS	Argentine peso	KRW	Korean won
AUD	Australian dollar	MXN	Mexican peso
BGN	Bulgarian lev	MYR	Malaysian ringgit
BHD	Bahraini dinar	NOK	Norwegian krone
BRL	Brazilian real	NZD	New Zealand dollar
CAD	Canadian dollar	PEN	Peruvian sol
CHF	Swiss franc	PHP	Philippine peso
CLP	Chilean peso	PLN	Polish zloty
CNY	Chinese yuan (renminbi)	RON	Romanian leu
COP	Colombian peso	RUB	Russian rouble
CZK	Czech koruna	SAR	Saudi riyal
DKK	Danish krone	SEK	Swedish krona
EUR	euro	SGD	Singapore dollar
GBP	pound sterling	THB	Thai baht
HKD	Hong Kong dollar	TRY	Turkish lira
HUF	Hungarian forint	TWD	New Taiwan dollar
IDR	Indonesian rupiah	USD	US dollar
ILS	Israeli new shekel	ZAR	South African rand
INR	Indian rupee		

（資料）BIS “2025 年外国為替及びデリバティブに関する中央銀行サーベイ”

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2025 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <https://www.iima.or.jp>